

科目名

倫理学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

「人間って本当にいいものかしら」という言葉が、児童文学作品の中にある。青年期の学生が社会有用の人材として、本物の大人、社会人になるためには、人間とは何かについて学びあい、より良く生きることについて考える習慣を身につけたり、結論を得たりする必要がある。スポーツ、ビジネスなどの応用倫理学で思考を深め、生き方を探る。

到達目標

- ・人間とは何か、私は何かなどの疑問や課題を把握することができる。
- ・発見した課題について主体的に取り組み、個としての結論を得ることができる。
- ・自己の思考判断や結論をもとに、他者との比較検討や議論により、学び合いができる。
- ・「人間とは何か」について、自己の表現力、表現方法で伝えようとする事ができる。

事前事後学習

日常的に善悪や生き方について関心を持ち、責任ある行動を取ろうと心がけて生活する。「より良く生きる」「我は我なり」などの言葉との出会いを大切に、記録に留めておく。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	○
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	ようこそ倫理学「人間って本当にいいものかしら」	1	
2	道徳教育 I 人間の魅力と魔力	2	
3	道徳教育 II 重要ポイントと展望	3	
4	義務と責任 I	4	
5	義務と責任 II	5	
6	善と悪 I	6	
7	善と悪 II	7	
8	表現の自由 I	8	
9	表現の自由 II	9	
10	スポーツは公平・平等 I	10	
11	スポーツは公平・平等 II	11	
12	貨幣の倫理学 I	12	
13	貨幣の倫理学 II	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会・意見交流	15	

授業外学習内容とその時間	新聞やメディアなどを活用し、時事問題に着目。 ノートに記録し、講義内活動に活用。		
課題のフィードバック方法	毎回の講義内容について、自らの思考判断を10分で400時に表現する。 質問等については、次回までに個別または全体に指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	45%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	45%	教室外学習	
その他	その他	その他	

テキスト	「本当にわかる倫理学」田上孝一 日本実業出版社
参考文献・推薦図書	「もういちど読む山川倫理」小寺 聡 山川出版社、「熊本の心」熊本県教育委員会編
関連のある授業科目	倫理学Ⅱ
資格等	なし

科目名

倫理学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択》

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

「人間とは何か」について自己に問い続けることが、社会有用の人材となるには必要である。益々、高度情報化社会が進展する中で、とすれば自己を見失い、自己有用感や自尊感情を獲得することなく、辛く困難な人生を歩んだり、自己否定の結果、生命の否定に及んだりすることもある。本授業では、多数と少数、存在と外見などの対立概念を現実の生活から問い、生きる価値について学び合う。人間はみんな本当にいいものなんだ。

到達目標

- ・人間とは何かの疑問や課題を把握することができる。
- ・自己の思考判断や結論をもとに、他者との比較検討や議論により、学び合うことができる。
- ・課題について主体的に追及し、検討の結果を踏まえて、自己の結論を得ることができる。
- ・追求・討論を通じて、人と社会の規範を問い続けようとすることができる。

事前事後学習

日常的に善悪や生き方について関心を持ち、責任ある行動を取ろうと心掛けて生活する。「より良く生きる」「我はわれなり」などの言葉との出会いを大切に、記録にとどめておく。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	○
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	さらに倫理学「花のき村と盗人たち」
2		2	多数と少数Ⅰ
3		3	多数と少数Ⅱ
4		4	宗教と倫理Ⅰ
5		5	宗教と倫理Ⅱ
6		6	自殺と自由Ⅰ
7		7	自殺と自由Ⅱ
8		8	ギャンブルと自由Ⅰ
9		9	ギャンブルと自由Ⅱ
10		10	情報と倫理
11		11	生命と倫理
12		12	環境と倫理
13		13	人権福祉と倫理
14		14	小論文作成
15		15	小論文発表会、意見交流

授業外学習内容とその時間	新聞やメディアなどを活用し、時事問題に着目。 ノートに記録し、講義内活動に活用。		
課題のフィードバック方法	毎回の講義内容について、自らの思考判断を10分で400時に表現する。 質問等については、次回までに個別または全体に指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	45%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	45%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「本当にわかる倫理学」田上孝一 日本実業出版社
参考文献・推薦図書	「もういちど読む山川倫理」小寺 聡 山川出版社
関連のある授業科目	倫理学 I
資格等	なし

科目名

文学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

山本八重子

実務経験

授業の概要

本講義では、詩歌、随筆、小説などいろいろな文学作品を学習し、輪読やグループでの話し合い等を通して、読解力を付けるとともに読む楽しさを味わうことができるようにする。なお、熊本・八代に関連のある作家や作品も取り上げる。お互いの読みを交流し、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の総合的なコミュニケーション力を養う。

到達目標

- (1) 大学生として、集中して「読むこと」の技術を習得し読解力を伸ばすことができる。
- (2) ものの見方・考え方を学び、自己を見つめ視野を広げることができる。
- (3) 文学作品に関心を持ち、読書の楽しさを味わうことができるようにする。

事前事後学習

《事前学習》 講義該当の文章を通読し、難語句の読みや意味を調べておくこと。
 《事後学習》 学習した作品を読んでまとめておく。ノートを整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	○
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業内容の概要および計画の説明	16	
2	星新一のショートショートを読む。『きまぐれロボット』から	17	
3	星新一のショートショートを読む。構成のおもしろさ	18	
4	詩を読み、鑑賞力をつける。	19	
5	随筆を読み、鑑賞力をつける。岡潔『春宵十話』から	20	
6	随筆を読み、鑑賞力をつける。向田邦子『父の詫び状』から	21	
7	短編小説を輪読する。芥川龍之介「鼻」から	22	
8	短編小説の作中人物の考察	23	
9	短編小説の文体等の考察	24	
10	短編小説『さすらいの煩惱』(黒川嘉正)を輪読する。	25	
11	短編小説『さすらいの煩惱』山頭火の生き方を探る。	26	
12	短編小説『さすらいの煩惱』山頭火の日奈久の3日間を探る。	27	
13	山頭火の俳句の鑑賞 小論文 課題提示	28	
14	課題提出	29	
15	講義のまとめ	30	

授業外学習内容とその時間	短編小説を読む。		
課題のフィードバック方法	課題について小論文にまとめた作品を添削して返却する。全体的にできていないところを再指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	70%	プレゼンテーション	有
小テスト	10%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『羅生門・鼻・芋粥』芥川龍之介 角川文庫 その他の教材は作成し配布する。
参考文献・推薦図書	星新一『きまぐれロボット』・岡潔『春宵十話』・向田邦子『父の詫び状』・黒川嘉正『さすらいの煩惱』
関連のある授業科目	
資格等	

科目名

文学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択》

担当者

山本八重子

実務経験

授業の概要

文学Ⅱでは、文学1を踏まえ、登場人物の生き方を学び、読解力をさらに伸ばす。そのため優れた日本文学の韻文・散文に出会い、読み方・学び方を深めて、文章の描写の美しさ・細やかさに気付くようにする。熊本・八代にゆかりのある名作や作家も取り上げ、郷土の自然や先人の心に共感する機会とする。

到達目標

- (1) 地方文学を含めた文学作品を読解し、その良さや美しさを味わうことができる。
- (2) 表現を通して感動した場面を押さえ、自己を見つめ、共感することができる。
- (3) 文学作品に関心を持ち、読書の楽しさを味わうことができる。

事前事後学習

- 《事前学習》 講義該当の文章を通読し、難語句の読みや意味を調べておくこと。
- 《事後学習》 学習した作品を読んで自分の感想をノートにまとめておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	○
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		16	授業内容の概要および計画の説明
2		17	短編小説『黄昏の蝶』(黒川嘉正)を輪読する。
3		18	短編小説『黄昏の蝶』作中人物の考察
4		19	短編小説『黄昏の蝶』表現の考察
5		20	熊本出身徳富蘆花の作品を輪読する。
6		21	熊本出身徳富蘆花の作品を輪読する。
7		22	八代に関連のある万葉集を探る。
8		23	八代に関連のある連歌師「西山宗因」を探る。
9		24	熊本ゆかりの『草枕』(夏目漱石)を輪読する。
10		25	熊本ゆかりの『草枕』を輪読する。
11		26	熊本ゆかりの「草枕」を輪読する。(非人情と不人情)
12		27	随筆を読み、ものの見方・考え方を広げる。幸田文「父・こゝろ」
13		28	小論文の書き方と作成準備 課題提示
14		29	課題についての小論文提出
15		30	講義のまとめ

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法	課題について小論文にまとめた作品を添削して返却する。全体的にできていないところを繰り返し指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	70%	プレゼンテーション	有
小テスト	10%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『草枕』夏目漱石 新潮文庫 その他の教材は作成し配布する。
参考文献・推薦図書	黒川嘉正『黄昏の蝶』・徳富蘆花の作品・幸田文『父・こんなこと』・万葉集
関連のある授業科目	
資格等	

科目名

社会学概論 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

ヒトはどのようにして社会的人間になったのか。人は社会とどのような関係性を持って生きているのか。具体的事実に基づいて、関係としての人間学を学ぶ。本授業では、身近な社会である家族から始まり、様々な場で法則性を発見する喜びに触れる。特に、祭りを通して絆を深め、社会の発展に貢献してきた姿を理解する。

到達目標

- ・ヒトと人間について関心を持ち、主体的に学ぶことができる。
- ・家族や学校など、自分とその社会との関係性の法則を発見することができる。
- ・郷土の祭りに関心を持ち、積極的な調査活動で関係性に気づくことができる。
- ・高度情報化社会における光と影を理解し、自己の主張を公表できる。

事前事後学習

日常的にメディア情報(特に新聞)に注視して、社会事象に関心を持ちノートに記録する。各地、各国の「ふるさとの祭り」について理解を深め、触れ、親しもうとする。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	ようこそ社会学「ヒトから人間へ」	1	
2	家族と人間 I 暮らしと食事	2	
3	家族と人間 II 子育てと介護	3	
4	憲法と人間 I 約束の手紙、日本国憲法	4	
5	憲法と人間 II 各国の憲法	5	
6	学校と人間 I 学校・学級の誕生	6	
7	学校と人間 II 学力・仲間づくり	7	
8	学校と人間 III 学校教育の成果と課題	8	
9	郷土の祭りと人間 I ふるさとの祭り	9	
10	郷土の祭りと人間 II 祭りの記憶	10	
11	郷土の祭りと人間 III 新しい祭りづくり	11	
12	情報社会と人間 I SNS、ロボット文化の時代到来	12	
13	情報社会と人間 II 今後の展望予測	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会、意見交流	15	

授業外学習内容とその時間	新聞やメディアなどを活用し、時事問題に着目。 ノートに記録し、講義内活動に活用。		
課題のフィードバック方法	毎回の講義内容について、自らの思考判断を10分で400字に表現する。 質問等については、次回までに個別または全体に指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	45%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	45%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「面白くて眠れなくなる社会学」橋爪大三郎 著 PHP研究所
参考文献・推薦図書	「ヒューマン」NHKスペシャル取材班 角川書店、「地域の社会学」森岡清志編 有斐閣アルマ、各社新聞(学内図書館)
関連のある授業科目	社会学概論Ⅱ
資格等	なし

科目名

社会学概論Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択》

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

次世代を担う学生が関係としての人間学を追究しその法則性を発見することは極めて重要である。本授業では、スポーツや遊びから始まり、将来の人生設計をも展望し人間学を追究する。特に、職業社会や格差社会については、的確な情報収集や判断分析力をもとに探究する。また、郷土の祭りについては、伝統文化や地域力向上の視点から、新たな時代の祭りの創造を模索する。

到達目標

- ・スポーツや遊びの経験から、仲間・友達の関係を探究しあうことができる。
- ・八代の祭り「妙見祭」の調査を通して、関係の人間学を学ぶことができる。
- ・格差社会に興味を持ち、多様な情報から選択して思考できる。
- ・職業社会(職場)における人間学を学び、討論することができる。

事前事後学習

日常的にメディア情報(特に新聞)に注視して、社会事象に関心を持ちノートに記録する。各地各国の「ふるさとの祭り」について、理解を深め、触れ親しもうとする。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	さらに社会学「町屋とマンション・・・」とは何か
2		2	スポーツと人間Ⅰ 遊びの経験に学ぶ
3		3	スポーツと人間Ⅱ 競技、芸術、人生の明暗
4		4	八代の祭りと人間Ⅰ 伝統文化としての妙見祭
5		5	八代の祭りと人間Ⅱ まちづくりとしての妙見祭
6		6	八代の祭りと人間Ⅲ 若者による祭りの創造
7		7	宗教と人間Ⅰ 様々な宗教文化
8		8	宗教と人間Ⅱ 生物社会の宿命
9		9	戦争と人間Ⅰ 争い、ケンカ
10		10	戦争と人間Ⅱ ムラから国へ
11		11	格差社会と人間Ⅰ 資本、労働、土地の確立
12		12	格差社会と人間Ⅱ 忍び寄る超格差社会
13		13	職業と人間:収入のある仕事、職業選択
14		14	小論文作成
15		15	小論文発表会、意見交流

授業外学習内容とその時間	新聞やメディアなどを活用し、時事問題に着目。 ノートに記録し、講義内活動に活用。		
課題のフィードバック方法	毎回の講義内容について、自らの思考判断を10分で400時に表現する。 質問等については、次回までに個別または全体に指導する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	45%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	45%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「面白くて眠れなくなる社会学」橋爪大三郎 著 PHP研究所
参考文献・推薦図書	「地域の社会学」森岡清志編 有斐閣アルマ、各社新聞(学内図書館)
関連のある授業科目	社会学概論 I
資格等	なし

科目名

法学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

社会生活を営む上で数多くの法律(正式な法律名を知らないものがほとんどである)と関わり合いを持つことを得ない。たとえば、売買、土地・建物の賃貸、交通事故、家庭における親子関係、相続や新聞の三面記事に載る犯罪、また会社で働く場合の会社との関係などである。これらの法律関係を基礎から考えたい。

到達目標

売買、賃貸借等契約内容の理解、交通事故による損害賠償責任の意味、婚姻・離婚・相続・親子関係についての民法の定め等、最低限度の知識を修得する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を授業前によんでおくこと。ホワイトボードに板書したことをノートにとり、整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	○
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	法の意義 法と道徳の違い	1	
2	法の適用 裁判の意味と構造	2	
3	家庭と法 親族関係について(1)	3	
4	家族と法 親族関係について(2)	4	
5	家族と法 相続関係について	5	
6	犯罪と法 犯罪とは何か?	6	
7	犯罪と法 罪刑法定主義	7	
8	犯罪と法 刑罰の意味、内容	8	
9	損害と法 不法行為	9	
10	損害と法 損害賠償義務	10	
11	企業と法 会社の種類	11	
12	企業と法 会社の種類	12	
13	企業と法 株式会社の内容	13	
14	職場と法 労働基準法の意義	14	
15	職場と法 労働基準法の原則	15	

授業外学習内容 とその時間				
課題のフィード バック方法				
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験	70%		ディスカッション	
レポート	15%		プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	15%		教室外学習	
その他			その他	

テキスト	「基本法学入門」 蓮井良憲・畑 博之著 有信堂高文社
参考文献・推薦図書	「法学入門」 遠藤 浩・久保田きぬ子 有斐閣
関連のある授業科目	法学Ⅱ
資格等	社会福祉主事任用資格

科目名

法学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

前期科目の「法学Ⅰ」は、法学全般に対する基本的な理解を目標とするが、「法学Ⅱ」は法学Ⅰの理解を前提として、法律と政治の実践的な問題について説明したい。

到達目標

選挙に関する憲法および公職選挙法の規定、社会権のひとつとして憲法の保障する労働基本権や労働法の原則、さらに裁判に対する原則などを理解する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を授業前によんでおくこと。ホワイトボードに板書したことをノートにとり、整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	○
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	政治① 民主主義について
2		2	政治② 政治的イデオロギーの機能
3		3	政治③ 選挙について
4		4	政治④ 現代国家の政治的特質
5		5	政治⑤ ナショナリズムについて
6		6	法律Ⅰ① 憲法の三大原則について
7		7	法律Ⅰ② 国会について
8		8	法律Ⅰ③ 裁判所について
9		9	法律Ⅰ④ 地方自治について
10		10	法律Ⅱ① 民法総則
11		11	法律Ⅱ② 物権法
12		12	法律Ⅱ③ 債権法
13		13	法律Ⅲ① 会社法
14		14	法律Ⅲ② 有価証券法
15		15	法律Ⅳ 労働法の現代的課題

授業外学習内容 とその時間				
課題のフィード バック方法				
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験	70%	ディスカッション		
レポート	15%	プレゼンテーション		
小テスト		スピーチ		
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ		
平常点・授業への貢献度	15%	教室外学習		
その他		その他		

テキスト	「基本法学入門」 蓮井良憲・畑 博之著 有信堂高文社
参考文献・推薦図書	「法学入門」 遠藤 浩・久保田きぬ子 有斐閣
関連のある授業科目	法学 I
資格等	社会福祉主事任用資格

科目名

英会話 I

《2単位(演習)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

村橋哲也

実務経験

授業の概要

より実践的な英文法を学んで日常会話に必要な英語を場面別に学習します。

到達目標

簡単な日常会話に必要な英語をマスターすることを目的とします。

事前事後学習

予習、復習に加え、クラスでの積極的な姿勢を期待します。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	○
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	オリエンテーション(シラバス等の説明)	16	Unit5:道のきき方
2	自己紹介、日常的なあいさつ	17	Unit5:道のきき方 (応用編)
3	単語を増やそう	18	プレゼンテーション:海外について学ぼう!
4	基礎的な英文法	19	Unit6:ホームステイ
5	基本的な英文法	20	Unit6:ホームステイ
6	テキストに登場する人物	21	Unit7:病気に関する会話
7	Unit1:機内での会話	22	Unit8:電話での会話
8	Unit1:機内での会話	23	Unit8:電話での会話
9	Unit:1応用編	24	Unit9:レストランでの会話
10	プレゼンテーション (Show & Tell)	25	Unit9:レストランでの会話
11	Unit2:入国審査に関する会話	26	Unit10:家族の紹介
12	Unit2:入国審査に関する会話	27	Unit10:家族の紹介
13	Unit3:両替に関する会話	28	総復習
14	Unit4:ホテルの予約	29	映画鑑賞
15	映画鑑賞	30	英語で寸劇を作ろう

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	一億人の英文法 大西泰斗、ポール・マクベイ著 東進ブックス
参考文献・推薦図書	随時紹介します
関連のある授業科目	英会話Ⅱ
資格等	なし

科目名

英会話I・II

《2単位(演習)／経営福祉学科1年前期・後期／選択》

担当者

村橋哲也

実務経験

授業の概要

日常会話に必要な基本的英文法を学びます。

到達目標

簡単な日常会話や、様々な定型の英語表現を学ぶだけでなく、自分の考えや意図を正確に表現できるようになることを目標とします。

事前事後学習

予習、復習に加え、クラスでの積極的な姿勢を期待します。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	○
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	
1	オリエンテーション(シラバス等の説明)	16	Chapter2:代名詞
2	基本的な英文法、学習の仕方	17	Chapter3:前から限定
3	Chapter1:主語	18	Chapter3:後ろから限定
4	Chapter1:動詞	19	Chapter3:何でも形容詞
5	Chapter1:基本文型1、2	20	Chapter4:説明の副詞
6	Chapter1:基本文型3	21	Chapter4:限定の副詞
7	Chapter1:基本文型4	22	Chapter5:比較、同等レベルを表す
8	Chapter1:基本文型5	23	Chapter5:比較級表現「～より」
9	Chapter1:目的語説明文	24	Chapter5:最上級表現「最も～」
10	Chapter1:レポート文	25	Chapter6:notは前から
11	Chapter1:命令文	26	Chapter6:notのクセ
12	Chapter1:There文	27	Chapter7:主要助動詞の意味 must, may
13	Chapter2:可算名詞・不可算名詞	28	Chapter7:主要助動詞の意味 will, can
14	Chapter2:単数名詞・複数名詞	29	Chapter7:主要助動詞の意味 shall, should
15	Chapter2:限定詞	30	Chapter7:助動詞相当のフレーズ

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	一億人の英文法 大西泰斗、ポール・マクベイ著 東進ブックス
参考文献・推薦図書	随時紹介します
関連のある授業科目	英会話 I
資格等	なし

科目名

日本語基礎演習

《2単位(演習)／経営福祉学科1年通年／選択》

担当者

萩田いくみ

実務経験

授業の概要

日本語能力試験や文献の要約、発表に必要な日本語力を養うため、読解や文法、文字語彙などの基礎を学びます。また、12月の日本語能力試験後はまとめとして、テーマに基づいた演習、簡単な発表を行います。

到達目標

日本語能力試験N3以上の日本語力の習得を目指します。さらに自分の国や日本の文化について自分の考えを日本語で表現し、発表するための日本語の総合的な運用力を養います。

事前事後学習

毎授業の前に、必ず当該箇所の語彙を覚えておくこと。
授業後には配布したプリント・資料をファイリングし、整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	○
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	日本語能力レベルチェック・オリエンテーション	16	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)
2	文字語彙・文法・読解・聴解(N4 / N3)	17	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)
3	文字語彙・文法・読解・聴解(N4 / N3)	18	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)
4	文字語彙・文法・読解・聴解(N4 / N3)	19	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)
5	文字語彙・文法・読解・聴解(N4 / N3)	20	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)
6	文字語彙・文法・読解・聴解(N4 / N3)	21	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)
7	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2)	22	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)
8	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2)	23	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)
9	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2)	24	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)
10	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2)	25	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)
11	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2)	26	総合演習1
12	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2)	27	総合演習2
13	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)	28	総合演習3
14	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)	29	総合演習4
15	文字語彙・文法・読解・聴解(N3 / N2 / N1)	30	総合演習5

授業外学習内容とその時間	日常生活や日本語学習において、語彙が重要であるため、授業外学習として語彙を積極的に覚えること。また、Moodleを用いて、練習問題をたくさん解くこと。		
課題のフィードバック方法	基本的には授業内でフィードバックを行うが、授業時間外に個別でフィードバックする場合もある。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	50%	ディスカッション	×
レポート		プレゼンテーション	○
小テスト	20%	スピーチ	○
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	×
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	×
その他		その他	

テキスト	レベルチェックの結果により、テキストを決定します
参考文献・推薦図書	必要に応じて紹介します
関連のある授業科目	
資格等	なし

授業内容に疑問がある学生やN3程度のレベルの日本語力がない学生は、履修登録前に相談をしてください。

科目名

海外研修

《2単位(実習) / 経営福祉学科・幼児保育学科1年後期 / 選択》

担当者

経営福祉学科長・幼児保育学科長

実務経験

授業の概要

本学では、例年11月下旬から12月の初旬にかけて約2週間のオーストラリアへの海外研修を実施しています。この研修の主な目的は、異文化に触れながら生活(ホームステイ)や学習(英会話研修・現地の幼稚園・施設等の見学および実習)を体験することです。そのなかで、国際感覚を身につけたり、自分自身の視野を広げることでも、学生時代の良い思い出にもなる有意義な研修となっています。希望者のみですが、英会話が多少苦手である方も自由に参加できます。授業計画(項目・内容)は、昨年度の実施状況を踏まえた内容を記載しています。詳細は後日に提示します。

到達目標

海外での生活の事前準備について理解を深め、研修においてその実際を学ぶ。

事前事後学習

研修先について事前に調べておく。研修後は、体験・歴史等について、学んだことをまとめる。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回数	前期	回数	後期
1		1	事前オリエンテーション1(意義と目的等の説明)
2		2	事前オリエンテーション2(ホストファミリー、準備等について)
3		3	入国手続き、空港・機内における指導
4		4	研修センターにおけるオリエンテーション
5		5	英会話研修、他
6		6	英会話研修と体験学習(乗馬体験)
7		7	英会話研修と体験学習(アクティビティ)
8		8	英会話研修と体験学習(ハーバークルーズ)
9		9	英会話研修と体験学習(フェアウェルランチ)
10		10	英会話研修と体験学習(幼稚園・施設の見学・実習)
11		11	シドニー市内見学および研修1
12		12	シドニー市内見学および研修2
13		13	ホストファミリーとの市内観光および研修
14		14	英会話研修(まとめと修了式)
15		15	体験報告会(参加者による研修報告発表含む)

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他(実習)	80%	その他	

テキスト	随時、資料を配布
参考文献・推薦図書	随時、参考資料を紹介
関連のある授業科目	基礎英語・英語応用・英会話 I・英会話 II
資格等	なし

科目名

ライフプランニング I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／卒業必修》

担当者	坂本哲朗・川井健次・宇野木広樹・村上幸生	実務経験	
授業の概要	社会人としての基礎能力を身に付け、これからの社会で生き抜くための人生観、職業観を確立させる。		
到達目標	①就職に対する心構えを早期に確立する。 ②社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を身につける。		
事前事後学習	配布資料がある場合には事前に読んで予習しておくこと。講義後は、習った内容をノート等に各自まとめておくこと。		

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	○
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期		回	後期
1	履修指導	全体指導・ゼミ別指導	1	
2	学科ガイダンス	大学での学び方	2	
3	就職環境の変化	社会で必要とされる人材	3	
4	研修	キャリアデザイン (グループワーク)	4	
5			5	
6	研修	キャリアデザイン (グループワーク)	6	
7			7	社会が求める人材って？
8	企業研究	業界・業種・職種	8	
9			9	
10	自己理解	自己分析	10	
11			11	
12	卒業生講和	私が選んだ道(仮題)	12	
13	進路相談	個別面談	13	
14			14	
15	交通安全講和		15	

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート	60%	プレゼンテーション	○
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	40%	教室外学習	○
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	随時紹介します。
関連のある授業科目	ライフプランニングⅡ
資格等	

科目名

ライフプランニングⅡ

《1単位(演習)/経営福祉学科1年後期/卒業必修》

担当者

坂本哲朗・川井健次・宇野木広樹・村上幸生

実務経験

授業の概要

社会人としての基礎能力を身に付け、これからの社会で生き抜くための人生観、職業観を確立させる。

到達目標

- ①自分らしい生き方を考える。
- ②ビジネスマナーの実際を習得する。
- ③卒業後の進路(職業選択)を明確にする。

事前事後学習

配布資料がある場合には事前に読んで予習しておくこと。講義後は、習った内容をノート等に各自まとめておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	○
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション 後期オリエンテーション及び履修指導
2		2	人生設計 ファイナンシャルプランナー講和
3		3	
4		4	研修 ゼミ別に学園祭について話し合い
5		5	
6		6	研修 模擬試験
7		7	
8		8	ビジネスマナー メイク・ヘア
9		9	アサーション
10		10	コミュニケーションスキル 文章作成
11		11	履歴書指導 個別指導
12		12	
13		13	エントリーの仕方
14		14	一般常識② 模擬試験
15		15	一般常識③ 模擬試験

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート	60%	プレゼンテーション	○
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	40%	教室外学習	○
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	随時紹介します。
関連のある授業科目	ライブプランニング I
資格等	

科目名

ライフプランニングⅢ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・村上幸生

実務経験

授業の概要

進路指導と、各自の個性に応じた専門知識と技術の修得を行う。

到達目標

1年次に身につけた知識や技術をもとに具体的に進路決定のために行動する。

事前事後学習

随時指示する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	○
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション 履修指導及び進路志望調査	1	
2	進路指導 全体指導 業種、職種などについて	2	
3	進路指導 全体指導 就活サイト登録など	3	
4	研修	4	キャリアデザイン (グループワーク)
5		5	
6	研修	6	キャリアデザイン (グループワーク)
7		7	
8	進路指導 全体指導 卒業生講和	8	
9	進路指導 全体指導 就職講和	9	
10	進路指導 ゼミ別に進路指導	10	
11	基礎学力向上 全体指導 就職模擬試験	11	
12	基礎学力向上 全体指導 適性検査	12	
13	基礎学力向上 全体指導 小論文指導	13	
14	進路指導 全体指導 就職活動状況調査	14	
15	進路指導 全体指導 夏季休暇の有効活用	15	

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート	70%	プレゼンテーション	○
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	○
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	随時紹介します。
関連のある授業科目	ライフプランニングⅣ
資格等	

科目名

ライフプランニングⅣ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・村上幸生

実務経験

授業の概要

進路指導と、各自の個性に応じた専門知識と技術の修得を行う。

到達目標

進路を決定し社会人になるための準備をする。

事前事後学習

随時指示する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	○
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション 後期オリエンテーション及び進路決定状況調査
2		2	進路指導 ゼミ別に進路指導
3		3	進路指導 ゼミ別に進路指導
4		4	学園祭について ゼミ別に学園祭について話し合い
5		5	進路指導 ゼミ別に進路指導
6		6	研修 進路指導
7		7	
8		8	研修 進路指導
9		9	
10		10	進路指導 ゼミ別に進路指導
11		11	進路指導 全体指導 進路決定状況調査及び未決定者の対応
12		12	進路状況確認と個別指導
13		13	個別指導及び進路決定者には進路先で必要とされる知識の習得
14		14	個別指導及び進路決定者には進路先で必要とされる知識の習得
15		15	進路指導 全体指導 進路決定状況調査及び未決定者の対応

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
	成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
	定期試験		ディスカッション	
	レポート	70%	プレゼンテーション	○
	小テスト		スピーチ	
	発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
	平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	○
	その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	随時紹介します。
関連のある授業科目	ライフプランニングⅢ
資格等	

科目名

経営学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科 1年前期 選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

今日、企業を取り巻く環境はますます厳しくなっている。貿易摩擦、リストラ、環境に対する企業責任、不良債権処理など、企業の個別対応だけでは解決できない課題が山積の状況である。しかし、企業は存続、維持されるべき宿命を負わされている。そこで、経営学 I の講義でこれらの諸問題解決の糸口を理解してもらいたい。

到達目標

資本主義社会における会社の役割、企業の国際化、これからの企業の社会的責任に対する理解を深める。

事前事後学習

授業計画のそれぞれにテーマに関連するテキストの箇所を授業前に読んでおくこと。ホワイトボードに記述したことをノートにとり、整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	○
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	企業の意義と役割①資本主義社会と社会主義社会	1	
2	企業の意義と役割②大企業と中小企業の区別	2	
3	企業の歴史①企業発展の歴史	3	
4	企業の歴史②生・家業、人的私企業	4	
5	企業の歴史③資本的私企業	5	
6	企業の歴史④現代企業	6	
7	企業の国際化①国際化の意義・動機	7	
8	企業の国際化②国際化の課題	8	
9	企業の国際化③経営資源の移転戦略	9	
10	企業の国際化④金融危機の問題	10	
11	会社形態 合名・合資・有限・株式	11	
12	株式会社①株式の意味	12	
13	株式会社②株式会社の現代的特徴	13	
14	株式会社③株式会社のガバナンス	14	
15	株式会社④株式会社の長所・短所	15	

授業外学習内容 とその時間				
課題のフィード バック方法				
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験	70%	ディスカッション		
レポート	15%	プレゼンテーション		
小テスト		スピーチ		
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ		
平常点・授業への貢献度	15%	教室外学習		
その他		その他		

テキスト	「ゼミナール経営学入門」 伊丹・加護野著 日本経済新聞社
参考文献・推薦図書	配布資料
関連のある授業科目	経営学Ⅱ
資格等	なし

科目名

経営学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科 1年後期 選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

経営学Ⅰにおいて学んだ経営学に対する基礎的理解を前提にして、今日の経営学の課題に積極的に挑戦してみたい。

到達目標

人はなぜ働くか、について人の欲求にまで深めて理解する。また会社側および働く側双方から、働く意欲(インセンティブ)の意味を考える。さらに、日本的経営について、これまでとこれからについて理解する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれにテーマに関連するテキストの箇所を授業前に読んでおくこと。ホワイトボードに記述したことをノートにとり、整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	○
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	人の欲求① マズローの欲求・生理的欲求、安全欲求
2		2	人の欲求② マズローの欲求・愛情欲求、尊厳欲求
3		3	人の欲求③ マズローの欲求・自己実現欲求
4		4	組織のインセンティブ①物的インセンティブ
5		5	組織のインセンティブ②評価的インセンティブ
6		6	組織のインセンティブ③理念的インセンティブ
7		7	組織のインセンティブ④自己実現的インセンティブ
8		8	企業文化①企業文化とは
9		9	企業文化②活力ある企業文化
10		10	企業文化③澱んでいる企業文化
11		11	日本的経営①日本的経営とは
12		12	日本的経営②終身雇用
13		13	日本的経営③年功主義
14		14	日本的経営④企業別組合・社内教育
15		15	経営学Ⅱのまとめ

授業外学習内容 とその時間				
課題のフィード バック方法				
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験	70%		ディスカッション	
レポート	15%		プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	15%		教室外学習	
その他			その他	

テキスト	「ゼミナール経営学入門」 伊丹・加護野著 日本経済新聞社
参考文献・推薦図書	配布資料
関連のある授業科目	経営学 I
資格等	なし

科目名

経済統計

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

実務経験

授業の概要

日本経済の現状を理解するためには、様々な経済統計を参照する必要があり、経済統計の理解が必要不可欠である。本講義では、経済分析に必要な経済統計の意味を理解するとともに、様々な経済統計をもとにして日本経済の現状を解説してゆく。

到達目標

経済統計の意味を理解し、データをもとにして日本経済の現状を理解できるようになる。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	経済統計とは何か		
2	日本の財政		
3	GDPとは何か(フローとストックについて)		
4	GDPとは何か(付加価値、総額と純額について)		
5	一人当たりGDP、GDP成長率		
6	GDP成長率の計算		
7	インフレーション、デフレーション、消費者物価指数		
8	失業率、スタグフレーション		
9	銀行の役割、信用創造、金融政策		
10	円高と円安		
11	マネタリーベースとマネーストック		
12	経済循環		
13	三面等価の原則		
14	経済成長率と寄与度・寄与率		
15	小テスト		

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。			
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験	60%	ディスカッション		
レポート		プレゼンテーション		
小テスト	20%	スピーチ		
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ		
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習		
その他		その他		

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『経済統計入門』 中村隆英著 東京大学出版会
関連のある授業科目	経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、国際経済論、総合政策論
資格等	なし

科目名

中小企業論

《4単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

実務経験

授業の概要

現在の日本経済を支えているのは一部の大企業ではなく、多くの中小企業である。中小企業は国民経済の礎であり、様々な技術やノウハウを持っている。中小企業の現状と特徴を理解することは、日本の経済、産業、流通、労働などを理解することにつながる。本講義では、中小企業を様々な観点から解説するとともに、学生の中小企業への理解の深化と関心を高める事を重視して進めていく。

到達目標

中小企業が経済において果たす役割と重要性、日本の中小企業の特徴を理解する。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	○
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	中小企業とは何か、中小企業をとりまく経営環境	16	公的金融と地域金融機関
2	中小企業とは何か、中小企業をとりまく経営環境	17	産業集積の概念と理論
3	中小企業の特質と経営問題	18	産業集積の概念と理論
4	中小企業の特質と経営問題	19	柔軟な専門化論、産業クラスター論
5	中小企業が抱える経営問題に対する課題と方策	20	柔軟な専門化論、産業クラスター論
6	中小企業が抱える経営問題に対する課題と方策	21	日本企業の海外進出の現状
7	下請システムと中小企業	22	日本企業の海外進出の現状
8	下請システムと中小企業	23	日本企業の海外進出の現状
9	下請けシステムの生成と発展	24	日本企業の海外進出の現状
10	下請けシステムの生成と発展	25	日本企業の中国への進出
11	中小企業と雇用不安・格差問題	26	日本企業の中国への進出
12	中小企業と雇用不安・格差問題	27	東アジアでの事業展開
13	中小企業と金融問題	28	東アジアでの事業展開
14	中小企業と金融問題	29	まとめ
15	公的金融と地域金融機関	30	まとめ

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。			
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験	60%	ディスカッション		
レポート	40%	プレゼンテーション		
小テスト		スピーチ		
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ		
平常点・授業への貢献度		教室外学習		
その他		その他		

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『現代中小企業論』, 高田亮爾 他著, 2013年版, 同友館
関連のある授業科目	経済学 I・経済学 II
資格等	なし

科目名

簿記

《4単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択必修》

担当者

磯部雄大

実務経験

税理士事務所に勤務

授業の概要

簿記初学者を対象に簿記の基礎から日商簿記3級程度の力の習得を目指す。簿記の実務は、問題やテキストでの勉強だけではイメージが湧きづらいので、実際の実務での処理も交えながら簿記の全体像を理解していきます。

到達目標

- ・簿記の流れについて理解する。
- ・勘定科目の意味を把握する。
- ・貸借対照表、損益計算書について理解する。

事前事後学習

事前にテキストの該当ページについて目を通しておくこと

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
0	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	簿記とは、資産・負債・資本と貸借対照表	16	その他債権・債務取引(立替金、預り金ほか)
2	収益・費用と損益計算書	17	売買目的有価証券、固定資産取引
3	取引と勘定記入	18	個人企業の資本と税務取引(資本金勘定、引出金勘定)
4	仕訳と転記	19	個人企業の資本と税務取引(個人企業の税金、消費税)、訂正仕訳
5	試算表、決算(決算とは、決算の手続き、振替と損益勘定)	20	演習問題他
6	決算(帳簿決算、損益計算書・貸借対照表の作成)	21	決算の手続き(決算、決算の手続き、決算整理事項①)
7	演習問題他	22	決算の手続き(決算整理事項①)
8	現金・預金取引(現金・現金過不足)	23	決算の手続き(棚卸表、8欄精算表)
9	現金・預金取引(当座預金・当座借越)	24	決算の手続き(BS、PLの作成)
10	現金・預金取引(小口現金)	25	決算の手続き(決算整理事項②)
11	商品売買取引(分記法と3分法)	26	決算の手続き(決算整理事項②)
12	商品売買取引(3分法による記帳)	27	伝票
13	掛け取引(売掛金と売掛金元帳、買掛金と買掛金元帳)	28	演習問題他
14	手形取引(受取手形勘定と支払手形勘定他)	29	演習問題他
15	その他の債権・債務取引(貸付金、借入金ほか)	30	演習問題他

授業外学習内容とその時間	授業前予習30分、復習30分			
課題のフィードバック方法				
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験	50%	ディスカッション	無	
レポート		プレゼンテーション	無	
小テスト		スピーチ	無	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	無	
平常点・授業への貢献度	50%	教室外学習	無	
その他		その他		

テキスト	スッキリわかる 日商簿記3級 第11版 TAC出版
参考文献・推薦図書	なし
関連のある授業科目	会計学
資格等	日商簿記3級受験

科目名

簿記演習

《2単位(演習)／経営福祉学科 1年後期 選択必修》

担当者

坂口慶多

実務経験

税理士事務所に勤務

授業の概要

簿記の講義で学んだ知識で演習問題を数多く解く。

到達目標

日商簿記検定3級に合格できる程度の知識を身につける。

事前事後学習

基本簿記の該当ページを読み、復習しておくこと。
講義中に一度解くだけでは身につかないので、講義後も複数回解くこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	簿記とは、資産・負債・資本と貸借対照表	16	伝票・月次合計試算表
2	収益・費用と損益計算書	17	演習問題①
3	取引と勘定記入・仕訳と転記	18	演習問題②
4	試算表	19	演習問題③
5	決算	20	演習問題④
6	精算表、現金・預金取引(当座まで)	21	演習問題⑤
7	現金・預金取引、商品売買取引	22	演習問題⑥
8	掛け取引	23	演習問題⑦
9	手形取引、その他の債権・債務取引	24	演習問題⑧
10	売買目的有価証券	25	演習問題⑨
11	固定資産取引、個人企業の資本と税務取引	26	演習問題⑩
12	訂正仕訳、決算・決算整理手続き・決算整理事項(その1)	27	演習問題⑪
13	決算・決算整理手続き・決算整理事項(その1)	28	演習問題⑫
14	棚卸表・8欄精算表・損益計算書と貸借対照表	29	演習問題⑬
15	決算整理事項(その2)	30	その他講義

授業外学習内容とその時間	授業前予習30分、復習30分			
課題のフィードバック方法	繰り返し問題演習を行うことにより、授業内容の定着を図る。			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験	50%	ディスカッション	無	
レポート		プレゼンテーション	無	
小テスト		スピーチ	無	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	無	
平常点・授業への貢献度	50%	教室外学習	無	
その他		その他	無	

テキスト	「基本簿記演習」 実教出版
参考文献・推薦図書	なし
関連のある授業科目	会計学
資格等	日商簿記3級受験

科目名

コンピュータ概論

《2単位(講義)/経営福祉学科1年前期》

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

Windows10およびOffice2016を利用し、コンピュータの基本的な知識を学ぶとともにプレゼンテーションを行う際に必要となる資料作成知識および技術を学ぶ。また、インターネットを使っていく上で習得しておくべき情報セキュリティや情報モラルについても学ぶ。

到達目標

さまざまな目的や状況に応じてプレゼンテーションを作成・編集できる。

事前事後学習

講義中に練習問題を出すので、しっかりと復習しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	○
9	情報収集整理能力	○
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	コンピュータの基本操作、情報セキュリティ	1	
2	プレゼンテーションの作成と編集1	2	
3	プレゼンテーションの作成と編集2	3	
4	テキスト、図形、画像の挿入と編集1	4	
5	テキスト、図形、画像の挿入と編集2	5	
6	表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入と設定1	6	
7	表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入と設定2	7	
8	特殊効果の設定とスライドショー1	8	
9	特殊効果の設定とスライドショー2	9	
10	プレゼンテーションの管理1	10	
11	プレゼンテーションの管理2	11	
12	プレゼンテーションの印刷と仕上げ	12	
13	表計算ソフトの利用4	13	
14	表計算ソフトの利用5	14	
15	まとめ	15	

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法	学習支援ポータル上にて行う。			
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験			ディスカッション	
レポート			プレゼンテーション	
小テスト	20%		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%		教室外学習	
その他(確認テスト)	60%		その他	

テキスト	学習支援ポータル上に配置
参考文献・推薦図書	学習支援ポータル上で紹介
関連のある授業科目	コンピューターリテラシー
資格等	MOS PowerPoint 2016

科目名

コンピュータリテラシー

《2単位(演習)／経営福祉学科1年後期》

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

科目「コンピュータ概論」を前提知識として、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの利用スキルを証明する資格であるMOS(マイクロソフトオフィススペシャリスト)取得を目指す。

到達目標

MOS資格の一般レベルが取得できる。また、インターネットおよびスマートフォンを利用した基本的な情報処理操作ができる。

事前事後学習

演習中に行う演習については、時間内に終わらない場合は必ず次の演習までに終わらせておくこと。また、小テストを行うこともあるので、必ず前回の復習をしておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	○
9	情報収集整理能力	○
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	MOS(Word一般レベル)1	16	MOS(Excel一般レベル)9
2	MOS(Word一般レベル)2	17	MOS(Excel一般レベル)10
3	MOS(Word一般レベル)3	18	MOS(Excel一般レベル)11
4	MOS(Word一般レベル)4	19	MOS(Excel一般レベル)12
5	MOS(Word一般レベル)5	20	MOS(Excel一般レベル)13
6	MOS(Word一般レベル)6	21	MOS(Excel一般レベル)14
7	MOS(Word一般レベル)7	22	MOS(PowerPoint一般レベル)1
8	MOS(Excel一般レベル)1	23	MOS(PowerPoint一般レベル)2
9	MOS(Excel一般レベル)2	24	MOS(PowerPoint一般レベル)3
10	MOS(Excel一般レベル)3	25	MOS(PowerPoint一般レベル)4
11	MOS(Excel一般レベル)4	26	MOS(PowerPoint一般レベル)5
12	MOS(Excel一般レベル)5	27	MOS(PowerPoint一般レベル)6
13	MOS(Excel一般レベル)6	28	MOS(PowerPoint一般レベル)7
14	MOS(Excel一般レベル)7	29	情報セキュリティ
15	MOS(Excel一般レベル)8	30	まとめ

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法	学習支援ポータル上にて行う。			
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験			ディスカッション	
レポート			プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%		教室外学習	
その他(確認テスト)	70%		その他	

テキスト	学習支援ポータル上に配置
参考文献・推薦図書	学習支援ポータル上で紹介
関連のある授業科目	コンピュータリテラシー
資格等	MOS Word 2016,MOS Excel 2016

科目名

経済学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

実務経験

授業の概要

我々は周囲の人々との色々な関係の中で生活しています。個人の行動は少なからず、周囲の人々の行動に影響を与え、それが社会全体への影響として波及していきます。集団的意思決定メカニズムでは、結果が自分ひとりの行動によって決まるのではなく、相手の行動によっても異なります。このように、複数の主体が相互に依存し合う状況をゲーム理論を用いて簡潔に表現し、理解していきます。また、家計や企業の経済行動を考えるマイクロ経済学の基礎的な部分を、身の回りの状況に照らし合わせながら解説していきます。

到達目標

マイクロ経済学とゲーム理論とはどのようなものか、消費者行動の理論、生産者行動の理論、戦略形ゲーム、展開形ゲームなどを理解する。公務員試験などで出題される問題を解けるようになる。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	経済学とは何か		
2	需要と供給		
3	市場均衡		
4	均衡に影響を与える要因		
5	限界効用均等の法則		
6	限界生産力		
7	利潤最大化条件		
8	小テスト		
9	インセンティブと均衡		
10	戦略形ゲーム(1)		
11	戦略形ゲーム(2)		
12	展開形ゲーム(1)		
13	展開形ゲーム(2)		
14	展開形ゲーム(3)		
15	小テスト		

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	40%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『ミクロ経済学戦略的アプローチ』, 梶井厚志、松井彰彦著, 日本評論社
関連のある授業科目	経済学Ⅱ、総合政策論、経済統計
資格等	なし

科目名

経済学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

実務経験

授業の概要

人々の意見をまとめてその中から望ましい選択肢を選び出すルールを集約ルールといいます。代表的な集約ルールは単純多数決であり、我々は普段から良く用いています。しかし、単純多数決よりもより優れた集約ルールがたくさん存在します。より良い集約ルールを社会全体の意思決定に用いる事で、我々の意思が反映される社会が実現されるのです。

本講義では、社会選択論を基礎として、様々な集約ルールを紹介し、それらの特徴を解説していきます。最終的に日本の憲法改正要件に関して、理論的に考えていきます。

到達目標

様々な集約ルールを理解し、実際に意見集約の際に最適な集約ルールを用いる事が出来るようになる。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	順序関係と選好
		2	選好関係
		3	選択構造
		4	独立投票モデル
		5	ペア敗者基準
		6	スコアリングルール
		7	小テスト
		8	ペア勝者基準
		9	多数決ルール
		10	コンドルセ・ヤングの最尤法
		11	マルケヴィッチの反例
		12	オストロゴルスキーのパラドックス
		13	単峰性と中位投票者定理
		14	憲法改正を考える
		15	小テスト

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいて下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	40%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か-』,坂井豊貴著, 岩波新書
関連のある授業科目	経済学 I、総合政策論、経済統計
資格等	なし

科目名

国際経済論

《4単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

実務経験

授業の概要

現在、世界的に所得と資産の格差が拡大してきている。このままでは、富めるものはますます富み、貧しいものはますます貧しくなるのか。この事を考える為に、所得と資産の格差が起こるメカニズムを理論とデータを用いて説明していきます。また、近年急速に経済成長してきているBRICsの状況を解説していきます。

到達目標

所得・資産格差の発生メカニズムを理解するとともに、近年の国際事情を理解する。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	所得・資産格差の拡大(1)	16	欧州金融危機
2	所得・資産格差の拡大(2)	17	中華人民共和国
3	所得格差拡大の原因(1)	18	中華人民共和国
4	所得格差拡大の原因(2)	19	中華人民共和国
5	所得格差拡大の原因(3)	20	中華人民共和国
6	所得格差拡大の原因(4)	21	インド
7	所得格差拡大の原因(5)	22	インド
8	所得格差拡大の原因(6)	23	ロシア
9	所得格差拡大の原因(7)	24	ロシア
10	所得格差拡大の原因(8)	25	ブラジル
11	所得格差拡大の原因(9)	26	ブラジル
12	所得格差拡大の原因(10)	27	まとめ
13	サブプライムローン問題	28	まとめ
14	サブプライムローン問題	29	まとめ
15	欧州金融危機	30	まとめ

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいで下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『21世紀の資本』, トマ・ピケティ著, 山形浩生他訳, みすず書房
関連のある授業科目	経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、経済統計
資格等	なし

科目名

総合政策論

《4単位(講義)／経営福祉学科2年前期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

実務経験

授業の概要

現在の日本経済は、長期に渡る経済不況、労働状況の悪化、社会保障費の増大、財政赤字の増加、急速に進む少子高齢化など、様々な問題を抱えている。これらの問題はそれぞれが密接な関係を持っており、問題解決のためには幅広い分野の知識が必要である。本講義では、日本経済が抱える問題を明らかにするとともに、その問題に対する解決策を解説する。

到達目標

総合政策の目的と課題を理解し、様々な問題に対する政策を理解する。

事前事後学習

Nkjc学習支援ポータルにて講義内容等をアップロードしますので、それらを利用して事前・事後学習をして下さい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	○
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	我が国の財政状況	16	公的年金の仕組み
2	我が国の財政状況	17	日本の医療保険の仕組みと歴史
3	日本銀行の機能と円高円安の影響	18	日本の医療保険の仕組みと歴史
4	日本銀行の機能と円高円安の影響	19	医療サービス市場の特殊性
5	21世紀の日本	20	医療サービス市場の特殊性
6	21世紀の日本	21	プレミアム付き商品券
7	人口高齢化、社会保障、経済成長の関係性	22	プレミアム付き商品券
8	人口高齢化、社会保障、経済成長の関係性	23	衆議院・参議院選挙
9	社会保障制度	24	衆議院・参議院選挙
10	社会保障制度	25	男女共同参画
11	社会保障制度の歴史	26	男女共同参画
12	社会保障制度の歴史	27	まとめ
13	公的年金の特徴	28	まとめ
14	公的年金の特徴	29	まとめ
15	公的年金の仕組み	30	まとめ

授業外学習内容とその時間	Nkjc学習支援ポータルにて講義内容、課題、小テストをアップロードしますので、それらを利用して予習・復習をして下さい。授業外学習時間としては、1回の講義あたり1時間程度を目安として予習・復習等をして下さい。		
課題のフィードバック方法	Nkjc学習支援ポータルにて課題や小テストの模範解答をアップロードしますので、各自確認をしておいで下さい。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時資料を配布する。
参考文献・推薦図書	『福祉の総合政策』, 駒村康平著, 創成社
関連のある授業科目	経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、経済統計
資格等	なし

科目名

会計学

《4単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

企業の会計はお金の処理から始まり、財務諸表(貸借対照表・損益計算書等)の作成へと続く一連の手続きである。この会計手続きの流れを把握し、財務諸表を作成する力、財務諸表を理解する力を講義を通じて身につけてもらいたい。

到達目標

それぞれの会社において作成される財務諸表の内容を理解できる力を身につける。財政状態を表す貸借対照表・収益力を表す損益計算書の内容を理解する力である。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を事前によく読んでおくこと。ホワイトボードの板書したことをノートに取り整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	○

授業計画(項目・内容)

回	後期	回	後期
1	会計の構造① 財務計算の意味	16	貸借対照表原則②繰延資産の会計処理 I
2	会計の構造② 損益計算の意味	17	貸借対照表原則③繰延資産の会計処理 II
3	会計の目的①会計の目的とは?	18	財務諸表の理解①収益力を見る I
4	会計の目的②財務諸表の意味	19	財務諸表の理解②収益力を見る II
5	会計公準 会計公準とは?	20	財務諸表の理解③資本収益率を見る。
6	一般原則①真実性の原則	21	財務諸表の理解④金利支払い能力 I
7	一般原則②正規の簿記の原則	22	財務諸表の理解⑤金利支払い能力 II
8	一般原則③継続性の原則	23	財務諸表の理解⑥損益分岐点の理解 I
9	一般原則④明瞭性の原則	24	財務諸表の理解⑦損益分岐点の理解 II
10	一般原則⑤単一性の原則	25	財務諸表の理解のまとめ
11	一般原則⑥保守主義の原則	26	財務諸表の作成①試算表 I
12	損益計算書原則①発生主義の原則	27	財務諸表の作成②試算表 II
13	損益計算書原則②実現主義の原則	28	財務諸表の作成③精算表 I
14	損益計算書原則③費用収益対応の原則③	29	財務諸表の作成④精算表 II
15	貸借対照表原則①貸借対照表3原則	30	財務諸表の作成まとめ

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験	70%	ディスカッション		
レポート	15%	プレゼンテーション		
小テスト		スピーチ		
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ		
平常点・授業への貢献度	15%	教室外学習		
その他		その他		

テキスト	「財務会計論講義第3版」宇南山英夫編著 東京経済情報出版
参考文献・推薦図書	「財務会計の原理」宇南山英夫編著 税務経理協会
関連のある授業科目	簿記・簿記演習
資格等	なし

科目名

所得税法

《2単位(講義)／経営福祉学科 2年前期 / 選択必修》

担当者

鶴 濱 邦 昭

実務経験

税理士事務所に勤務

授業の概要

確定申告に必要とされる所得税法の知識を習得します。
 全て国民は納税の義務を負っています。個人事業者、給与所得者等その年度中に何らかの収入があった国民は確定申告等を行うことにより、所得税を支払わなければなりません。所得税等の税金により「国」は運営されています。税金のうちでも重要であり、かつ生活に密着した所得税の仕組みを解説します。

到達目標

収入・所得のある人は、確定申告等により、すべて所得税を「国」に納付しなければならないことになっています。そこで、所得税に関する基本的な事項について理解します。例えば、所得の種類・必要経費・源泉徴収制度・所得税控除等の意味を理解します。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの個所を事前によく読んでおくこと。
 ホワイトボードに板書したことをノートにとり整理すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	○
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	所得税制度のあらまし①所得とは？	1	
2	所得税制度のあらまし②課税所得の内容	2	
3	所得税制度のあらまし③変動所得・臨時所得他	3	
4	所得税制度のあらまし④源泉徴収制度	4	
5	所得税制度のあらまし⑤青色申告制度	5	
6	所得金額の計算①収入金額の計算 Ⅰ	6	
7	所得金額の計算②収入金額の計算 Ⅱ	7	
8	所得金額の計算③必要経費の計算 Ⅰ	8	
9	所得金額の計算④必要経費の計算 Ⅱ	9	
10	所得金額の計算⑤所得税控除等について	10	
11	所得金額の計算⑥事業所得金額の計算	11	
12	所得金額の計算⑦不動産所得金額の計算	12	
13	所得金額の計算⑧給与所得金額の計算	13	
14	所得金額の計算⑨その他所得金額の計算	14	
15	所得税制度まとめ	15	

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験	90%	ディスカッション	無	
レポート		プレゼンテーション	無	
小テスト		スピーチ	無	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	無	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	無	
その他		その他	無	

テキスト	「新暮らしの税金百科」 財団法人納税協 清文社
参考文献・推薦図書	「やさしい所得税」 税務経理研究協会
関連のある授業科目	会計学
資格等	なし

科目名

相続税法

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

原田 八重

実務経験

税理士事務所に勤務

授業の概要

民法に定める相続に関する基礎知識について解説する。
相続税の基本的な計算のしくみについて解説する。

到達目標

民法に定める相続に関する基礎知識(相続・法定相続人・法定相続分・遺留分・遺言等)を理解し、相続税の基本的な計算のしくみが理解できるようになること。

事前事後学習

授業計画におけるテキストの該当箇所を事前に読み、授業中に板書したことをノートにとり、理解が出来なかった点を確認し、質問するように努めること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	○
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	相続の基礎知識Ⅰ(承認・放棄)
3		3	相続の基礎知識Ⅱ(法定相続人・法定相続分)
4		4	相続の基礎知識Ⅲ(遺留分・遺言書)
5		5	贈与税と相続税の関係
6		6	相続税の計算のしくみⅠ(申告期限と申告方法)
7		7	相続税の計算のしくみⅡ(相続財産)
8		8	相続税の計算のしくみⅢ(みなし相続財産)
9		9	相続税の計算のしくみⅣ(基礎控除)
10		10	相続税の計算のしくみⅤ(財産評価)
11		11	相続税の計算のしくみⅥ(小規模宅地の特例)
12		12	相続税の計算のしくみⅦ(配偶者の税額軽減)
13		13	相続税の計算のしくみⅧ(相続時精算課税)
14		14	納付税額の計算Ⅰ(各種税額控除)
15		15	納付税額の計算Ⅱ(税額計算)

授業外学習内容 とその時間	授業前予習30分、復習30分		
課題のフィード バック方法	毎回講義の後半に問題を出し、答えを講義する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	15%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	15%	教室外学習	
その他		その他 ケースメソッド	有

テキスト	講義毎にレジュメを作成して配布
参考文献・推薦図書	なし
関連のある授業科目	所得税法
資格等	なし

科目名

建築CAD

《1単位(演習)／全学科後期》

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

2次元汎用CADソフト「jw-cad」を使用して、CADの基本操作を学ぶとともにCADを利用したさまざまな成果物を制作する。また、建築製図の基本も同時に学ぶ。

到達目標

設計者からの指示に従いCADで建築設計図を描くことができる。

事前事後学習

講義内容について復習を行い、講義期間中に数回の成果物を提出してもらう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	○
9	情報収集整理能力	○
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	jw-cadを使うための準備、建築製図の基本
2		2	会場案内図の制作1
3		3	会場案内図の制作2
4		4	住宅間取り図の制作1
5		5	住宅間取り図の制作2
6		6	オフィスレイアウトの制作1
7		7	オフィスレイアウトの制作2
8		8	階段平面図の制作1
9		9	階段平面図の制作2
10		10	階段平面図の制作3
11		11	通り芯・寸法・通り芯記号1
12		12	通り芯・寸法・通り芯記号2
13		13	柱・壁・窓・間仕切壁1
14		14	柱・壁・窓・間仕切壁2
15		15	建具

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法	学習支援ポータル上にて行う。			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験		ディスカッション		
レポート		プレゼンテーション		
小テスト		スピーチ		
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ		
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習		
その他(確認テスト)	70%	その他		

テキスト	学習支援ポータル上に配置
参考文献・推薦図書	学習支援ポータル上で紹介
関連のある授業科目	
資格等	建築CAD検定3級

科目名

プログラミング演習

《2単位(演習)／経営福祉学科2年前期》

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

現在、スマートフォンの急速な普及によりモバイルサイトの重要性が高まってきている。本講義では、webプログラミングを通じて、初歩的なプログラミング技術を習得するとともにモバイルサイトを構築するために必要な知識と技術を習得する。

到達目標

webプログラミング言語であるjavascriptを用いて、簡易なモバイルサイトが構築できる。

事前事後学習

プログラミングの演習にはキーボード操作が必要不可欠です。キーボード入力が苦にならないようにしっかりとキーボード練習をしてください。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	○
9	情報収集整理能力	○
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	後期	回	後期
1	モバイルサイト構築のための開発環境	16	ペンションサイトのシステム設計
2	HTML5概要	17	買い物かご機能の搭載1
3	HTMLの基本	18	買い物かご機能の搭載2
4	CSSの基本	19	予約システム機能の搭載1
5	javascriptの基本	20	予約システム機能の搭載2
6	jQueryMobileの基本	21	ペンションサイトの制作1
7	eビジネスとは	22	ペンションサイトの制作2
8	オンラインショッピングサイトのシステム設計	23	ペンションサイトの制作3
9	オンラインショッピングサイトの制作1	24	ペンションサイトの制作4
10	オンラインショッピングサイトの制作2	25	ペンションサイトの制作5
11	オンラインショッピングサイトの制作3	26	ペンションサイトの制作6
12	オンラインショッピングサイトの制作4	27	ペンションサイトの制作7
13	オンラインショッピングサイトの制作5	28	jQueryMobileのカスタマイズ1
14	オンラインショッピングサイトの制作6	29	jQueryMobileのカスタマイズ2
15	オンラインショッピングサイトの制作7	30	jQueryMobileのカスタマイズ3

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法	学習支援ポータル上にて行う。			
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験			ディスカッション	
レポート			プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%		教室外学習	
その他(確認テスト)	70%		その他	

テキスト	学習支援ポータル上に配置
参考文献・推薦図書	学習支援ポータル上で紹介
関連のある授業科目	コンピュータリテラシー
資格等	なし

科目名

医療事務

《2単位(演習)／全学科後期》

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

診療報酬請求事務業務や窓口業務など医療事務職として求められる専門知識および技術を学ぶとともに「メディカルクラーク」の称号取得を目指す。

到達目標

医療機関等における受付業務、診療報酬請求事務業務に関する能力を身につける。

事前事後学習

講義内容について復習を行い、講義期間中に課題を提出してもらう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	○
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	患者接遇／医療事務一般知識1	16	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト7
2	患者接遇／医療事務一般知識2	17	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト1
3	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト1	18	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト1
4	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト1	19	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセプト2
5	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト2	20	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセプト2
6	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト2	21	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセプト3
7	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト3	22	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセプト3
8	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト3	23	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセプト4
9	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト4	24	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセプト4
10	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト4	25	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセプト5
11	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト5	26	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセプト5
12	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト5	27	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセプト6
13	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト6	28	患者接遇／医療事務一般知識／入院レセプト6
14	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト6	29	総合演習1
15	患者接遇／医療事務一般知識／外来レセプト7	30	総合演習2

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法	学習支援ポータル上にて行う。			
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験			ディスカッション	
レポート			プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%		教室外学習	
その他(確認テスト)	70%		その他	

テキスト	『診療報酬・完全攻略マニュアル2022-23年版』青山美智子、医学通信社
参考文献・推薦図書	
関連のある授業科目	
資格等	メディカルクラーク

科目名

色彩学

《2単位(講義)／全学科前期》

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

ユニバーサルデザインの視点から色彩とは何かを理解するとともに色彩設計および配色デザインを理解し、色覚の多様性に配慮した、誰もが見やすい色の使い方をアドバイスできる能力を習得する。

到達目標

色彩検定協会認定UCアドバイザー資格を取得できる能力を身につける。

事前事後学習

講義内容について復習を行い、講義期間中に課題を提出してもらう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	○
4	社会に対する理解	
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	色のユニバーサルデザイン	1	
2	色が見えるしくみ1	2	
3	色が見えるしくみ2	3	
4	色が見えるしくみ3	4	
5	色の表し方1	5	
6	色の表し方2	6	
7	色の表し方3	7	
8	色覚のタイプによる色の見え方	8	
9	高齢者の見え方	9	
10	色のUDの進め方1	10	
11	色のUDの進め方2	11	
12	色彩検定UD級対策1	12	
13	色彩検定UD級対策2	13	
14	色彩検定UD級対策3	14	
15	まとめ	15	

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法	学習支援ポータル上にて行う。			
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験			ディスカッション	
レポート			プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%		教室外学習	
その他(確認テスト)	70%		その他	

テキスト	『色彩検定公式テキストUC級』日本色彩研究所、色彩検定協会
参考文献・推薦図書	学習支援ポータル上で紹介
関連のある授業科目	
資格等	色彩検定協会認定UCアドバイザー資格

科目名

税理事務実習

《2単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中／選択必修》

担当者

川井健次

実務経験

授業の概要

会計処理の実務を実際に体験することにより、会計の専門知識と会計処理能力を身につける。
税理事務実習の目的
①会計処理の実際に触れ、将来の職業会計人としての素養を身につける。
②基本的な技能を実習先にて実際に応用し、生きた知識を身につける。

到達目標

簿記・会計学・所得税等、会計および税については、講義を通じて学ぶことになっているが、現実の社会における会計実務の流れを体験する。

事前事後学習

実習前指導と実習後の評価表による指導を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
	・実習の内容		
	①計算実務、②帳簿・伝票の貴重		
	③データ入力、④説客・接遇		
	⑤文書実務		
	・実習の選考基準		
	①税務・会計分野に所属するもの		
	②つぎの科目から3科目以上履修したもの		
	◆簿記		
	◆簿記演習		
	◆会計学		
	◆所得税法		
	◆相続税法		
	・実習期間		
	8月(12日間)		

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無	
定期試験		ディスカッション		
レポート		プレゼンテーション		
小テスト		スピーチ		
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ		
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習		
その他(実習)	70%	その他		

テキスト	なし
参考文献・推薦図書	会計学及び簿記テキスト
関連のある授業科目	簿記・簿記演習・会計学・所得税法・相続税法
資格等	なし

情報ビジネス論 I

《2単位(講義)／情報福祉学科1年前期／選択必修》

担当者

村上 亜由美

実務経験

航空会社に勤務

授業の概要

日本のしきたりやマナーの歴史を学び社会人として、国際人としてのマナーを理解し、堂々と振舞えるように学んでいく。又、会社の仕組みを知り、仕事をの進め方、ビジネスコミュニケーションのルールを学ぶ。実践を通し訓練を繰り返すことで社会人としての心構え、就職活動に役立つスキルを身につける。

到達目標

社会人として、国際人として、マナーとは何か。歴史、しきたり、意味を理解する。社会人として身につけた基礎知識を実践し、自信を持って社会の為、自己実現のために高い成果を達成できる人材になる。

事前事後学習

随時資料を配布します。資料をよく読み理解を深める事。必要に応じて「働く若者のハンドブック」を活用します。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業オリエンテーション	16	
2	マナーとは何か、歴史と意味	17	
3	国際人としてのマナー	18	
4	社会人に必要なマナー	19	
5	社交の場でのコミュニケーション	20	
6	会社の仕組み	21	
7	仕事の進め方	22	
8	電話対応のマナー	23	
9	来客対応のマナー	24	
10	ビジネス文書のルール ①書面	25	
11	②電子メール他	26	
12	食事のマナー (和・洋・中)	27	
13	しきたり、慣習について	28	
14	日本の文化について	29	
15	まとめ レポート作成	30	

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
成績評価方法	評価割合		アクティブラーニング	有無
定期試験			ディスカッション	
レポート	50%		プレゼンテーション	
小テスト			スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)			ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	50%		教室外学習	
その他			その他	

テキスト	なし
参考文献・推薦図書	働く若者のハンドブック 熊本県雇用環境整備協会
関連のある授業科目	なし
資格等	なし

情報ビジネス論Ⅱ

《2単位(講義)／情報福祉学科1年後期／選択必修》

担当者

村上 亜由美

実務経験

航空会社に勤務

授業の概要

日本のしきたりやマナーの歴史を学び社会人として、国際人としてのマナーを理解し、堂々と振舞えるように学んでいく。又、会社の仕組みを知り、仕事の進め方、ビジネスコミュニケーションのルールを学ぶ。実践を通し訓練を繰り返すことで社会人としての心構え、就職活動に役立つスキルを身につける。

到達目標

社会人として、国際人として、マナーとは何か。歴史、しきたり、意味を理解する。社会人として身につけた基礎知識を実践し、自信を持って社会の為、自己実現のために高い成果を達成できる人材になる。

事前事後学習

随時資料を配布します。資料をよく読み理解を深める事。必要に応じて「働く若者のハンドブック」を活用します。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	他者とのコミュニケーション力	
3	自分の考えを表現する力	
4	社会に対する理解	○
5	社会における企業の役割	
6	社会の経済活動	
7	身近な法律に対する基本的な理解	
8	パソコン活用能力	
9	情報収集整理能力	
10	数的問題解決能力	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	授業オリエンテーション
2		2	第一印象
3		3	身だしなみ
4		4	挨拶
5		5	発声法 (声のマナー)
6		6	お辞儀の仕方
7		7	お辞儀の仕方(実践)
8		8	歩き方 座り方
9		9	丁寧な言葉遣い
10		10	企業研究の取り組み方
11		11	自己PRの作成
12		12	就職活動について
13		13	面接練習
14		14	模擬面接、評価
15		15	まとめ レポート作成

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
	成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
	定期試験		ディスカッション	
	レポート	50%	プレゼンテーション	
	小テスト		スピーチ	
	発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
	平常点・授業への貢献度	50%	教室外学習	
	その他		その他	

テキスト	なし
参考文献・推薦図書	働く若者のハンドブック 熊本県雇用環境整備協会
関連のある授業科目	なし
資格等	なし